

臨床美術の
現場から

35

空白をも忘れさせるアートのカ

株式会社ベネッセスタイルケア
リハビリホーム グランダ鷺ノ宮
【東京都練馬区】

❖ リハビリの場での臨床美術

「鷺ノ宮アート倶楽部」という愛称で、2016年4月よりスタートした臨床美術は、本年で6年目を迎えるようとしています。

以前からお世話になっているベネッセの営業の方から、美術・福祉・医療を兼ね備えた臨床美術をリハビリに重点に置いている施設で行ってみたいかどうか？と、「リハビリホームグランダ鷺ノ宮」をご紹介いただいたのがきっかけです。

このコロナ禍、徹底した感染対策をしながら参加者8、9人。1つのテーブルに2、3人。間隔を空け、臨床美術士2人で行っております。

❖ 施設と話し合いながら、
試行錯誤の現場作り

開始当初は、作業療法士の方が臨床美術のプロデュースに大変興味を示して頂き、セッションに同行していただきました。アート制作を通して、身体の中の部分を使えたか？ 感じた色の選択や作品の筆圧や指の強さなど情報交換をしながら、リハビリを兼ね備えた現

場で進めてまいりました。

しかし、本来の業務と時間が重なってしまうことがだんだん多くなってきてしまいました。色々話し合いを進めた結果、現在は、アート倶楽部担当のスタッフの方について頂いております。活動を通して皆さんの体調や様子を施設職員全員が把握し、ご家族に伝えていただく形に落ち着きました。

作品もそれぞれの個性が光り、ときどきご家族も一緒にセッションに参加することもあります。穏やかな活気に満ちてきたアート倶楽部に降りかかった新型コロナウイルスによる入館制限もあり、昨年2月よりお休みを余儀なくされました。

❖ 4か月後の再開

第1回目の緊急事態宣言が終わってホーム長より7月に、「入居者の方の精神面を考慮し、感染予防対策を徹底して、アート倶楽部を再開します」との知らせが届きました。4か月ぶりの再開となります。久しぶりの入館日でしたが、その期間の空白を忘れさせてくださったのが「今日は何時から？」と話しかけてくる、皆さんの変わらない笑顔でした。



そしてモチーフのレモンに触れ香りを嗅いだ瞬間、目を見開き無心で画材を巧みに操り「きらきらきらめくレ・モ・ン」を完成！恒例の賑やかな観賞会となりました。

お部屋にお戻りになる時の、皆さんの腕タッチ握手が何と力強いことでしたでしょう。

❖ これからも、施設と手を携えながら

やはり長いステイホーム期間中に弱られてしまった参加者の方もいらっしゃいます。

筆力が弱くなり文字を書くのが困難だった方が、先日の臨床美術の習字のセッションで、ご自分の作品はもちろんのことお名前のサインも描け、スタッフの方々から驚きと喜びの歓声が上がりました。お知らせを受けたその方のご家族も、アート倶楽部の参加継続を要望されております。

まだまだ、コロナ禍でのセッションは続きそうです。



表紙掲載作品

プログラム名「菜の花を描く」制作者：グランダ鷺ノ宮臨床美術参加者

中断せざるをえないこともあると思います。こんな時だからこそアート倶楽部はしっかりと施設と手を携えながら、月に1度楽しくアートを実施したいと願っています。

皆さんから生み出された作品が、施設を明るくし、ご家族にも届くように、この臨床美術を続けていこうと思っています。 【臨床美術士 初鹿映子】

◎株式会社ベネッセスタイルケア
リハビリホーム グランダ鷺ノ宮

〒176-0024 東京都練馬区中村 3-6-1

TEL:0120-17-1165(総合案内)

ホームページ: <http://www.benesse-styl-care.co.jp>

アートセラピー「臨床美術」とは

絵やオブジェなどの作品を楽しみながら作ることで脳を活性化させ、高齢者の介護予防や認知症の予防・症状改善、働く人のストレス緩和、子どもの感性教育などに効果が期待できる芸術療法（アートセラピー）のひとつです。

1996年に医師、美術家、ファミリーケア・アドバイザーがチームとなって実践研究をスタートさせました。医療・美術・福祉の壁を越えたアプローチが特徴の臨床美術は、介護予防事業など認知症の予防、発達に気になる子どもへのケア、小学校の特別授業、社会人向けのメンタルヘルスケアなど多方面で取り入れられ、いきいきと人生を送りたいと願うすべての人へ希望をもたらしています。

◆芸術造形研究所ホームページ

<http://www.zoukei.co.jp/>

◆日本臨床美術協会ホームページ

<http://www.arttherapy.gr.jp/>